

4-5

演題	ウェルビーイングを目指した認知症ケア
副題	～ペット型ロボット「LOVOT」の導入効果～

認知症ケア
介護ロボット

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	わかたけ青葉

発表者名 (職種)	加藤 綾 介護職員
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市青葉区奈良 4-6-1
TEL	045-960-0651
FAX	045-960-0653
メールアドレス	nakamura_akira@wakatake.or.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	横浜市青葉区に2006年3月に開所。入居定員100名、ショートステイ20名のユニット型の介護老人福祉施設です。「職員一丸となって人を幸せにします。」という法人使命のもと、自分自身が利用したいサービス実現に努めています。
---------------------------	---

研究の目的、PRポイント

利用者様が尊重され、幸せに生きること、施設生活においてウェルビーイングな環境とはどのような状態なのか、職員誰もが模索していることと思います。今回は、認知症高齢者と介護者を対象にペット型ロボット「LOVOT」の導入による変化について報告します。

取り組んだ課題

業界変革において、介護現場での生産性向上の取り組みは喫緊の課題である。私達の施設では、介護現場の最小人数オペレーションを実施。その中で、身体的、精神的負担が職員アンケートであがっていた。そこで、身体的、精神的負担を軽減することは、利用者様、職員にとってウェルビーイングな状態につながるのではないかと模索してきた。今回は、LOVOT導入における職員の精神的負担と利用者様の変化について明らかにすることを目的に取り組みを行った。

具体的な取り組み

施設内の2ユニットに1台ずつLOVOTを配置。職員10名を対象に以下(1)、(2)の比較、利用者様を対象に(3)の調査を実施した。

- (1) ストレス測定器での測定
精神的負担をデータで可視化することを目的に疲労ストレス計を活用し、自律神経のバランスからリラックス状況の計測。LOVOT導入前後1週間、就業前後の1日2回、測定を行った。
- (2) 自記式アンケートの実施
精神的負担の一つに認知症ケアに対する不安が強かったことを受け、厚生労働省の職業性ストレス簡易調査(57項目)と合わせ、認知症ケアについてのアンケートを実施。結果は厚生労働省版ストレスチェック実施プログラムで分析を行った。
- (3) タイムスタディ調査
感染予防のためのテーブル上のパーティション設置、テーブル間隔を広くとることで利用者様同士の交流が減少し、居室で過ごす時間が増えていた。そこで、ご利用者様の同士のかわり、ユニットの滞在時間をLOVOT導入前後3日間の調査を行った。

活動の成果と評価

- (1) ストレス測定器での測定結果
職員の中央値の比較では、導入前は健全な状態(低ストレス、高回復)、導入後はやる気の状態(高ストレス、高回復)となり交感神経優位の状態に変化した。導入前後ともにリラックスして仕事に望んでいるという結果であった。
- (2) 自記式アンケート結果
ストレス簡易調査の分析結果では、量やコントロールをまとめた項目である「健康リスクA」、上司、同僚の支援をまとめた項目である「健康リスクB」、「総合健康リスク」の3項目に分類。いずれの項目も導入前よりリスクが低い状態となった。
また、認知症ケアについての不安感は取り組み前は8割の職員が不安を感じていたが、取り組み後は2割に減少した。
- (3) タイムスタディ調査結果
利用者様同士の会話、ユニット滞在時間も増加した。
上記の結果から、ストレス測定器での自律神経バランスデータと職員が感じている精神的負担感には乖離があった。
ストレス簡易調査と合わせて行ったアンケート結果からは、利用者様の笑顔、職員の笑顔が増え、仕事を楽しいと感じている職員が増えた結果となった。
また、今回の取り組みに対して職員満足度は90%となり、取り組みに対して効果があったと考える。

今後の課題

ご利用者様、職員にとってウェルビーイングな状態を目指すことに終わりはなく、常に改善を継続していく必要がある。今後も課題を明確にし、達成に向けて介護ロボット等も活用しながら効果測定を行っていく必要があると考える。

参考資料など

厚生労働省、「職業性ストレス簡易調査(57項目)」
https://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzen/sei12/dl/stress-check_j.pdf